

どーする どーなる 下水道 全集中 下水の呼吸!

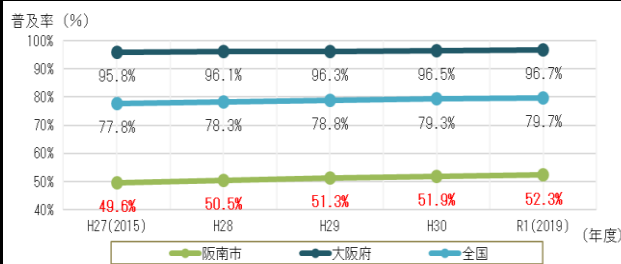
阪南市下水道事業経営戦略 策定しました!

本市の公共下水道は、平成5年度の供用開始以来、整備に努めてきましたが、人口減少が進み、施設の老朽化も進んでいく中、使用料収入の増収も見込めず、財政的にも厳しい状況です。
 このような状況の中、今後も安定的に事業を継続していくため、阪南市下水道事業経営戦略策定審議会を設置し、本計画を策定しました。

本市の現状と課題 *本記事では主要課題を3つに絞っています。

①普及率の状況 ~ 低い普及率

事業開始が遅かったこともあり、大阪府内の平均普及率(96.7%)や全国平均普及率(79.7%)に比べ、低い状況となっており、今後の整備には相当の費用と年月が必要です。

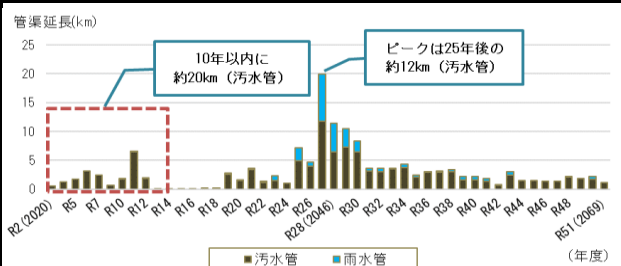


②耐用年数を迎える管渠 ~ 進む老朽化

管渠の標準的な耐用年数は50年とされていますが、大規模開発地の管渠を引継いだこともあり、10年以内に約20kmの管渠が標準耐用年数を迎えます。今後、老朽化した管渠の更新が増加していくため、費用も含めた効率的な対策が必要です。



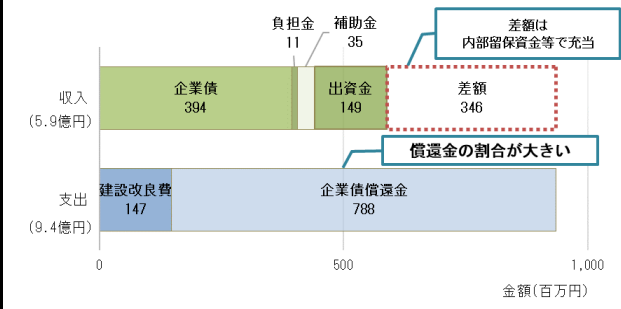
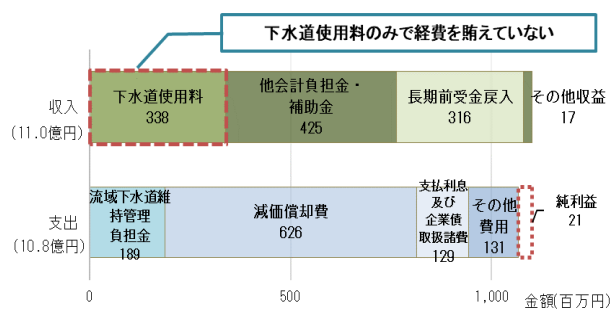
* 管に木の根が侵入



③厳しい財政事情 * グラフは令和元年度決算

維持管理費などその年の収支となる収益的収支は、下水道使用料だけでは経費を賄えず、一般会計からの補助金に依存しています。

建設など将来投資の収支となる資本的収支は、企業債と繰入金に依存し、企業債の償還金が大きな負担となっています。



今後の方向性

人口減少が進んでいく中、市全域を整備していくことが困難と考えられ、新規整備については、都市機能や居住区域を誘導する「立地適正化計画」が策定されたことも踏まえ、右の図のような方針で今後整備していくこととします。また、下水道の見える化や使用料の適正化を図ります。



基本理念は「次世代へつなぐ下水道」だよ!
 これは、次の世代へ「つなぐ」と人と下水道を「つなぐ」という意味なんだ!

